

事業報告

活動名	日本技術士会東北本部岩手県支部 2024 年度新春講演会 ～シリーズ岩手を知る（第 32 回）～ 「明治日本の産業革命」～釜石の軌跡～ (CPD 番号 6-12)
主催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
日時	令和 7 年 1 月 25 日（土） 15:00～16:30
場所	プラザおでって（盛岡市中ノ橋通 1-1-10）
参加人数等	会場 40 名（会員 33 名、一般 7 名）WEB 配信視聴 4 名、合計 44 名

活動内容

【講演の要旨】

日本の産業革命は東洋初にして約半世紀という短期間で成し遂げられ、それを物語る遺産群が 2015 年に「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産に登録されたが、2025 年はその 10 周年に当たる。今回は世界遺産に登録された釜石の製鉄業の軌跡を中心に講演をいただいた。

1. 講演内容

【講師】

釜石市文化スポーツ部文化振興課世界遺産室長兼同課主幹兼釜石市立鉄の歴史館館長 森一欽（もり かずよし）氏を招き講演を頂いた。森氏は昭和 48 年、愛知県生まれ、神奈川出身で、平成 13 年法政大学大学院人文科学研究科日本史専攻修士課程修了し、同年釜石市採用、文化財調査員として主に遺跡の発掘調査に従事。東日本大震災の復興発掘等も担当する一方、橋野鉄鉱山の世界遺産登録及び釜石の鉄の歴史の周知活動に従事している。

【講演要旨】

4 億年前、赤道付近の大陸が分離し、長い年月をかけて海洋プレートと大陸プレートからこすり取られてできる「付加体」により南部北上山地ができた話から始まり、鉄原料の誕生（三陸の成り立ち）、近代化前の鉄の歴史、鉄産業の近代化の歴史、明治日本産業革命遺産についてご講演をいただいた。近代化前の砂鉄を原材料とした「たたら」製法では、当時、必要とされた大砲の製造に不向きであり、磁鉄鉱を原材料として、より高温で鉄を溶かす反射炉（洋式高炉）による製法が求められている中、盛岡出身の大島高任らが釜石において反射炉の建設に成功し、その後、日本各地に反射炉の建設が広まった。明治日本の産業革命における八幡は「達成の地」であるが、釜石は良質の磁鉄鉱が産出され、初めて反射炉が建設された「発祥の地」とあるということに感銘を受けた。

参加者から観光客に関する質問が出され、目標は 1 万人/年であるなど森氏からは丁寧な回答があった。
(文責 永田裕一)



会長の挨拶（番澤氏代理）



司会の高橋氏



公演中の森氏



開場の様子